

2023年度第1四半期決算説明会
主な質疑応答

●全社

Q: 第1四半期で在庫増減による損益影響はあったのか。今後も、在庫増減による損益影響が生じる可能性があるか教えてほしい。

A: 2022年度の第1四半期は、ビジュアルコミュニケーションなどで在庫増加に伴う利益の押し上げがあった一方で、2023年度の第1四半期は在庫を抑制する局面であり、利益にマイナスの影響があった。第2四半期以降も在庫削減を計画しており、これらの影響は年間の計画に織り込んでいる。

Q: 在庫削減目標を教えてほしい。

A: 棚卸資産回転日数は6月末時点で118日と高い水準になっており、これを今年度末までに100日を切ることを目標としている。

●プリンティングソリューションズ

Q: オフィス・ホーム IJP の販売台数は、想定に対し未達だったとのことだが、地域別の需要動向とチャンネル在庫の状況を教えてほしい。

A: 新型コロナ影響による需要増が沈静化したことで、北米などの先進国市場の需要は緩やかな減少を予想していた。第1四半期は、インフレ影響などもあり、想定よりも弱含んで推移した。また、東南アジアや欧州などでは、市場全体の在庫が増加傾向であり、これがエプソンの販売に影響したと考えている。

Q: 第1四半期のオフィス・ホームプリンティングの事業利益は前年同期に対して減益だったが、通期ではどのようにして増益を図るのか。

A: 第1四半期は、前年同期に対して、販売活動の本格化に伴い前年同期から販管費などを増加させたことなどにより減益となった。第2四半期以降は、IJPのチャンネル在庫は適正化に向かうと予想しており、柔軟な価格対応や需要喚起に向けた販売プロモーションの実施により販売を伸長させる計画。同時に、費用投下は昨年度に対して大幅に増加させることなく、適切にコントロールしていくことで、前期比で増益を予想している。

Q: 商業・産業 IJP では、経済停滞や投資抑制など外部環境の影響を受けているか。

A: 完成品では、各国での金利上昇による経済停滞や投資抑制などにより需要減退の影響を受けているが、サインやテキスタイルなどの成長領域を中心に伸長した。通期でも供給制約の解消や新製品の効果などにより、前期比で増収を見込んでいる。

ヘッド外販は、コロナ禍の影響で控えられていた展示会が再開するなど、中国の印刷機メーカーのプリンター需要が増加傾向にあり伸長した。第2四半期以降も前年同期比で増収を予想している。

●マニファクチャリング関連・ウェアラブル

Q: マイクロデバイスの今後の需要動向をどう予想しているのか。

A: 市場での在庫調整は、今年度末まで続くとの前提に変更した。